

あまうが通信

第143号 令和6年3月1日発行

あまうが(アモーガ)とは真実

発行所 ひょうたんでら融通尊寺 〒651-0093 神戸市中央区二宮町4-8-14

電話078-221-5136

発行人 住職 宇喜多 智弘(うきた ちこう) メール yuzusonj@gmail.com

FAX 078-221-9256

HP <https://www.yuzusonji.or.jp> 携帯 090-1480-4400

春季彼岸法会は 3月20日春分の日(水曜)午後2時より

融通尊寺本堂にて、彼岸の法会を執り行います。お彼岸とは、私たちやご先祖様が、苦しみの川を渡りたどり着く、喜びと救いの彼(か)の岸(きし)です。その岸にたどり着くための方法は六波羅蜜(ろくはらみつ)で、その実践の一つがこの彼岸法会(ひがんほうえ)です。精霊廻向は1霊位につき3,000円です。同封の申込み用紙に記入されて廻向料を添えて当日ご参拝いただいても、事前に申込まれても結構です。ご家族おそろいでのご参拝をお待ちしています。

3月20日お彼岸のお中日は弘法大師さまの祥月命日・正御影供(しょうみえく)のお逮夜(おたいや=前日)です。当寺では3月のお彼岸のお参りは観音経を読誦して、お彼岸のお中日の彼岸法会ではさらに、弘法大師さまの御宝号・南無大師遍照金剛を108回お唱えします。

法話会・写仏・行事のお知らせ いずれも参加自由無料です。

4月6日(土曜)2時 写仏会

4月14日(日曜)3時 法話会

5月11日(土曜)2時 写仏会

5月19日(日曜)3時 法話会

6月8日(土曜)2時 写仏会

6月16日(日曜)3時 法話会

7月6日(土曜)2時 写仏会

7月14日(日曜)3時 法話会



《日帰りで京都のお寺へお参り》

行く先：京都洛陽三十三観音霊場

会費：1万5千円

日時：4月5日(金) 集合時間：午前8時

集合場所：融通尊寺

申込〆切り：3月31日 参加お申し込み、問い合わせは、住職(携帯090-1480-4400)まで。

名神高速道路を通過してマイクロバスでお参りします。洛陽三十三観音霊場巡りは、西国観音参りの功德があると言われております。今回は新長谷寺、金戒光明寺、紫式部の邸宅跡の廬山寺、京都のおへそと言われる六角堂 頂法寺さんなど10ヶ寺へお参りします。今回は8巡目の2回目(4回で1巡)を回っております。だんだんと観音様のありがたみが増します。楽しみです♪

春のお彼岸参りをさせていただいておりますお家への、お参りの日時については、3月20日頃までにお電話でご連絡申し上げます。

いつも連絡が遅くなりご迷惑をおかけしております。もっと早くお参りの日時がお知りになりたい方は、恐れ入りますが、住職の携帯電話090-1480-4400までお願いします。留守番電話になっていますので、ご用件を録音して下さい。後程、お返事申し上げます



当院の始りは、昭和の初め岡山の祇園寺の住職であった初代宇喜多恵雄(うきたえお)師が神戸の二宮町に京都の福勝寺から融通尊(ゆうずーさん)を分身していただいて、寶珠院 融通尊寺(ほうしゅいん ゆうずうそんじ)として開いた事からです。

その跡を継いだのが二代住職宇喜多恵隆(うきたけいりゅう師)です。さらにその娘である、宇喜多保恵(うきたやすえ)の婿養子が三代目、現在の住職のボク宇喜多智弘(うきたちこう)です。その長男が、次期四代目で副住職の宇喜多正憲(うきたしょうけん)になります。

融通尊寺はお寺が出来てから百年ほどの、とても歴史の浅いお寺です。神戸市内の真言宗のお寺ですと再度山大龍寺(ふたたびさんたいりゅうじ)や摩耶山天上寺(まやさんてんじょうじ)などは千年以上の歴史と由緒を誇る素晴らしいお寺です。千年以上続くということは本当に凄いことだと思います。

そこでボクの趣味である漫画(読む方)に、原作：さいとう・たかを『ゴルゴ 13』(ゴルゴサーティーン)というのがあります。1968年、ボクが10歳小学3年生の時に小学館『ビッグコミック』という漫画雑誌に連載が始まりました。

もっともボクが『ビッグコミック』や『ゴルゴ 13』を読んで「面白い」と理解できるようになったのはずっとあとで、高校生か20歳を超えてからだったと思います。原作者のさいとう・たかを先生は2021年9月24日に逝去されましたが、その間50年以上、1度も連載を休まないという快挙(雑誌連載では作者都合・作者急病により休載というのがよくあります)をなしとげられました。

しかも、原作者のさいとう先生が亡くなって2年以上経過した現在でも月に2回の連載が休むことなく継続中なのです。最近では電車や駅の広告なんかにもゴルゴ13は登場しています。これはさいとう・たかを先生がプロダクション制で複数のスタッフが分業で漫画を制作するというスタイルを明確に確立したためです。この、原作者が居なくなっても新作が発表され続けるというのが、仏教でお釈迦様や、弘法大師様が亡くなられて(入滅、入定なさって)千年、二千年経ても今も、日々あらたにお経が読まれ、人々がそこにお釈迦様やお大師さまがおられるかのように振る舞っているのと、共通しているのです。

これは、音楽や小説、詩や絵画などにも共通しています。たとえばサンタクロースなんかもそんな例の一つです。いつものボクのこじつけですね(笑)

実は先日ラジオ番組に出演しまして、融通尊寺とひょうたん守り、太閤秀吉さんについて小説家の菅靖匡先生から貴重なご教示を賜りましたので下にアドレスとQRコードを載せておきますので、もし良ければ聞いてみて下さいませ。

